



最終回では、日本遺産のストーリーを感じる探訪コースをご紹介します。春の風に吹かれながら、「出雲國たたら風土記」に触れてみてはいかがでしょうか。

【安来市・奥出雲町コース】

和鋼博物館：安来港を望むたたら総合博物館。2階のレストラン「安来グランパ」はたたらの炭を思わせる炭火焼料理が人気。また、世界に誇るヤスキハガネの刃物を扱う直営店を併設。



↓
安来節演芸館：安来節の定期公演を楽しめる。一日4公演。売店や食堂を併設。

↓
鍛冶工房弘光：鉄の燭台など手作りの工芸品を手掛ける工房。あかり工芸は国内外に多くのファンを持っています。

↓
金屋子神社：全国の金屋子神社の総本社。境内の灯笼などに刻まれた全国各地の地名から、信仰の広がりを知ることができる。

↓
絲原記念館：鉄師の歴史を感じる記念館に隣接した住宅や庭園を公開。鉄穴流しの技法で築いたとされる出雲流庭園でゆったりとした時間を。

【奥出雲町・雲南市コース】

奥出雲たたらと刀剣館：たたら製鉄と日本刀に関する資料を展示。炉の実物大地下構造を見ると、先人の知恵に驚かされる。



↓
可部屋集成館：鉄師櫻井家ゆかりの品々を展示する集成館に隣接した居宅と庭園を公開。阿井川の清流と四季折々の彩を見せる周囲の山々が、訪れる人を魅了する。



↓
たたら鍛冶工房：和鉄からつくるペーパーナイフや刃物づくり体験が可能。要予約。

↓
鉄の歴史博物館：たたら復元操業のドキュメンタリー映像は必見。鉄師田部家に関する資料も展示。

↓
菅谷たたら山内：日本で唯一現存するたたら製鉄の拠点。鉄づくりを実際に行った建物「高殿」が残っているほか、周囲の集落も当時の様子を伝える。



山崎修二「崖と海」未発表

●名碗を愉しむ会のお知らせ

・4月9日(日)：さくら茶会
解説を聞きながら企画展を観た後、散りゆく桜に想いを馳せながら如水庵でお茶を愉しみますか。会費2,500円/人。詳しくは美術館にお尋ねください。



写真：13代今泉今右衛門「色鍋島唐花文茶碗」

《開館時間》 9時から16時30分。
ただし入館は16時まで。
《休館日》 毎週火曜日
《入館料》 一般1000円、
学生(高校生以上)500円、
団体(20人以上)800円。

山崎修二は安来市上吉田町に生まれ、後に浜田を拠点に山陰の風土と人をテーマにした作品を数多く発表しました。昭和32年の夏、山崎は生涯の師と仰いだ斎藤与里と一緒に旅に出ました。その時に訪れた出雲市の多伎海岸から見た島根半島を描いたのが「崖と海」です。手前に崖が屹立し、遠くにふるさとに繋がる山々が見えます。きつと恩師に安来の話をしながら楽しくスケッチしたのでしよう。これが二人で巡った最後の旅となりました。安来に生

彼のことを「安来生まれの石見人」と評した人がいます。描き始めてから完成するまでに40年かかったこの作品を見ると、その意味がよく分かります。恩師やふるさとへの思いが込められた作品をご覧ください。4月23日(日)午後1時30分からは東光会会員の門脇折江さんを迎えて、「山崎修二先生の思い出」と題してお話しいただきます(聴講無料・予約不要)。



山崎修二展が始まりました

企画展「洋画家山崎修二の世界」 5月22日まで

安来市加納美術館だより 電話36-0880